

長谷地質調査事務所 正員 三条暢久
東北工業大学 正員 浅田秋江
仙台市 正員 小沢初美

(1)はじめに 昭和53年6月12日発生した宮城県沖地震により、仙台市北部の丘陵地を中心とする宅地造成地にも被害が生じた。地震後ただちに宮城県仙台市では、災害の解明及び次災害防止対策のための調査を実施、現在でも調査を継続中である。本報告は、仙台市北根一念防地区(通称、黒松団地)の現在までの調査結果についてまとめてものである。

(2)調査項目 調査項目は被災状況調査を含む地表踏査、ボーリング調査(15孔、延々14km)を実施した。次にボーリング15孔のうち3孔に一方何エゲージのペーパー垂計を設置、又地盤傾斜計(2基)及び伸縮計(4基)を設置し、観測を行った。

(3)調査結果 (1)被災状況及び分布一踏査による被災状況はオノ表に示すとおりであるが、この中で擁壁については亜裂が生じただけのものを数に含まない。また連続し

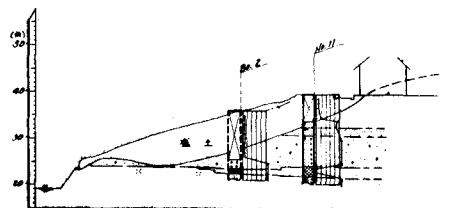
オノ表 被災概要	
調査対象戸数	131戸
第一種警戒地帯	39 "
第二種警戒地帯	19 "
被災戸数	29 "
全壊戸数	16 "
半壊戸数	13 "
擁壁崩壊	5基
斜面崩壊	2 "

図-1 主な亜裂、被災家屋及び盛土等層厚線図 S= $\frac{7}{10,000}$



て数軒の擁壁が崩倒したもののについては1ヶ所としている。これを平面図に示したものか、オノ図である。(D)地形地質一本地区は切土前(旧地形)でも標高20~80mと比高差の少ない緩かば丘陵地に位置し、踏査及びボーリング結果より地質的には基盤岩はオ三系中新統へ鮮新統の七北田~鳴岡層の礫岩へ砂岩へシルト岩等の軟岩類によりなる。いろいろが、この結果を地質断面図としてオヌ図に示す。軟岩類を切土、盛土して現在宅地として利用されている。被害が発生している所は全体的に盛土分布範囲に集中していることがわかる。次にボーリング結果と旧地形図より、盛土等層厚線図をオノ図に示した。この結果より基盤岩である軟岩類の地層の走向は東西で、傾斜はやや南傾斜となる。旧次の勾配(旧河床勾配)は平均10°~15°であるが、30°の勾配を示す所もみられる。(E)地盤傾斜計-地盤傾斜計(2ヶ所)は盛土分布地内にかつ被害が著しい地点に設置した。この結果、傾斜計(K-11)では6月22日の測定開始後40日間は変動の大きいものであったが、それ以後は変動が少なくて11月以降では極

地質断面図第2図



くわすかには、といふ。次に傾斜計(K-12)では測定開始後7月2日までは2%の累積変動を示し、7月25日まででは10%以下とやや小さくなつた。7月25日から8月19日にかけて降雨量が少ないにもかかわらず傾斜変動量が大きくなり～37%を示すようになつた。傾斜運動方向は8月上旬までは旧沢方向と一致しているが、傾斜変動量が大きくなつてからは旧沢方向とは一致しないようである。8月19日以降、10月下旬では16～10%の傾斜変動を示すがこれ以後は徐々にその変動量は小さくなつてゐる。これらの結果をまとめて表2表に示す。(2)伸縮計-伸縮計は(SRへ1～4), B-11号孔を中心とする盛土分布地内に4ヶ所設置した。これらは伸縮計(K-12)での7月～8月にかけての高変動値観測結果により設置したものである。測定結果SR-3で設置一週間で2mmの値(正確値)が観測された。彼は変化がみられない。その他3ヶ所については変動がほとんどみられないので、盛土内のN値は深度別分布ではやや変化(バラツキ)が多いが、深度に無関係にN△Aが大部分を占めN値の度数ではN=4が最も多く(N=5のものは急激に減少している。また、N>N=10のものは極くわずかしか存在しない。(N>N=10)のものは岩盤の強風化のものと含んでいる可能性もある。)(3)歪計-歪計はボーリングのNo.11, No.13, No.14に設置した。このうちNo.11は盛土分布地(盛土厚5.6m)でかつ土砂流出が発生している所、また傾斜計(K-12)付近でもある。No.13, No.14は岩盤分布地である。(ただし6～7月は風化がやすやすんでいる。)これらの測定結果を変動図の表3図に示した。この結果測定期間中は盛土分布内でも風化岩盤分布内でもほとんど変動のないものであることがわかる。

(4)もすび

(1)宮城県沖地震による仙台市北部造成地の被害発生は、盛土の締固めの良し悪しはある、たとしても伊豆半島沖地震等で報告されているものと同様、岩盤上の盛土部にたい。(2)岩盤上の盛土部全体が被害を受けたものではなく、盛土前の旧地形に非常に左右される。即ち、盛土厚にあまり関係なく旧地形の傾斜が大きい地区に被害が大きい傾向を示している。

い)地盤傾斜計は測定開始後5ヶ月間内で変動を示したが、それ以後変動は収束しつつある。歪計及び伸縮計は測定開始後絶続してほとんど変動を示していない。

